

平成16年度弁理士試験論文式筆記試験問題

[民事訴訟法]

Xは、東京地方裁判所において、Yに対して貸金1000万円の返還を求める訴えを提起した。これに対し、Yは、本件貸金は賭博開帳資金であることをXに打ち明けて借り受けたものであるから不法原因給付であり、返還義務はないという抗弁を主張するとともに、Xに対する1000万円の売買代金債権による相殺の予備的抗弁を提出した。

- (1) 東京地裁は、不法原因給付の抗弁を排斥する一方で、相殺の予備的抗弁を採用しXのYに対する請求を棄却する判決をなした。この判決に対してYが控訴した場合、この控訴は適法か。

【20点】

- (2) XのYに対する訴訟が第一審に係属中、YがXを相手として、千葉地方裁判所において、相殺に供した1000万円の売買代金の支払を求めて訴えを提起した場合、この訴えはどのように扱われるか。

【30点】

論点[民事訴訟法]

(1) 控訴の利益を問う。

(2) 二重起訴禁止と相殺の抗弁との関係を問う。